

林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター

平成30年度 年 報



はじめに

北海道の東部に位置する釧路地方は、釧路湿原と阿寒摩周の二つの国立公園やラムサール条約登録湿地等、雄大な自然環境に恵まれた地域です。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林の特徴を踏まえて、森林環境教育等に携わる教育関係者、ボランティア団体・地域住民、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。

この度、平成30年度の主な活動内容がまとまりましたので、ご覧下さい。

目 次

森林環境教育の取組み	・・・・・・・・ 1 頁
【学校林活動】	
地域との連携・普及啓発等の取組み	・・・・・・・・ 3
【地域と連携した取組み】【普及啓発の取組み】【広報活動】	
自然再生・生物多様性保全の取組み	・・・・・・・・ 8
【雷別ドングリ倶楽部】	
活動区域及び所在地	

森林環境教育の取組み

沼幌小学校で樹木観察

6月20日（水）、標茶町立沼幌小学校で、樹木観察の授業が行われ、当センター職員が校舎周辺のミズナラ・ヤチダモ・カラマツ等の樹木の特徴を解説しました。

この樹木観察は、同校の3・4年生の総合的な学習の時間で「沼幌の自然・環境」の授業が進められており、今回はその一環として、校舎周辺の樹木を調べるフィールドワークが行われたものです。また、この授業では「地域の再発見」に活かすため、子どもたちがそれぞれテーマを設定していることから、ユキムシやキツツキ、ドングリ等についても話題提供しました。

子どもたちは、葉を触ってみたり、臭いを嗅いでみたりしながら、樹木の特徴等をつかんでいました。



▽解説を聞きメモを取る様子

【学校林活動】

「標茶町立中茶安別小中学校」は、標茶町の市街地から南東約11kmの中茶安別地区に所在し、児童・生徒数は40名程度の小規模校で、小学校と中学校が併設されています。

学校林（愛称「るんるんフォレスト」）は、同校の西方約2kmに位置し、森林内には案内板・林道・遊歩道・樹名板・巣箱・ツリーハウス等が整備されており、同校が策定した「森林環境教育年間指導計画」により、様々な自然体験学習を実施しています。

当センターは、平成18年度からこの学校林活動に携わっており、平成30年度は春・夏・秋の3回、自然観察等の活動を支援しました。



▽新たに設置した看板の前で



5月21日（月）春の学校林活動

第1回目は、昨年秋の活動で設置した実のなる木の冬囲いの撤去と学校林の「木について知ろう」が行われました。

この「木について知ろう」は、平成30年の冬に学校林の一部が伐採され、翌年の春に植樹が予定されていることから、児童・生徒が、その跡地に何を植栽して、どのような学校林を目指すのかを検討する、基礎学習として行われたものです。樹木の観察では、小学生と中学生が2班に分かれ学校林の遊歩道を歩きながら、当センター職員が花の咲く木や実のなる木等について、樹木の特徴を解説しました。



▽学年代表による発表の様子

最後にまとめとして、各学年の代表から植栽したい樹木の発表がありました。

8月23日（木）夏の学校林活動

第2回目は、森林が野生生物の生息場所となっていることを知ってもらうこと、また、自分や地域と自然・森林とのつながりを考えてもらうことをテーマとして、虫や生きものを探すフィールドワークを行いました。

まず始めに、根釧西部森林管理署担当者が、ゲームの仕方や虫の探し方等を説明し、その後、小学生と先生が3班に分かれスタートしました。

各班は、「るんるんフォレスト」の遊歩道や笹地・水辺等で、虫や生きものを探すとともに、見つけたものを記録し「見つけた場所ビンゴカード」で、何列ビンゴできるか、競っていました。



▽土の中の生きものを探す子ども達



▽見つけた生きものを記録する様子

10月25日（木）秋の学校林活動

第3回目は、平成31年春の学校林での植樹に当たり「子どもたちが、森林の将来像をイメージしながら、植栽する樹種を検討したいので、春の学習内容を深める内容をお願いします。」と、担当の先生からお話があり、樹木の特徴や適応性等をテーマとして取組みました。

実のなる木の冬囲いの終了後、植栽箇所へ移動し、当センター職員が、イヌエンジュ・エゾヤマザクラ・オニグルミ等の17種類の樹木について、「花・実・紅葉が美しい」や「香りが良い」等の特徴、また「人工林で必要な作業」、「木と植える場所の相性」、「森の生きもの」等を解説しました。

最後に各班の代表から、「春の花・秋の実等、四季を楽しめる森林」や「食べ物や薬になる森林」等、植栽したい樹種の発表があり、来春の植樹に向けて、児童・生徒の検討が続けられます。



▽解説を聞く様子



▽検討の様子

地域との連携・普及啓発等の取組み

【地域と連携した取組み】

釧路市こども遊学館

ふれあい先生の森とあそぼう

4月28日（土）～5月6日（日）、釧路市こども遊学館で「木のおもちゃであそぼう！」が開催されました。

この催しは釧路市こども遊学館が、ゴールデンウィーク期間に行う人気行事で、民間団体等が協力・出展し、木のおもちゃ展や様々な木の工作会等が行われ、当センターは、4月28・29日（土・日）に、マツボックリや木の輪切り、アイスノリの棒等で木工クラフト作りを行いました。

2日間で、100名を超える参加があり、子どもより親が木工クラフトの作成に熱中する等、用意した席がなかなか空かない程の大盛況となりました。



▽会場の様子

釧路総合振興局森林室・北海道

初任段階教員研修

8月1日（水）、釧路総合振興局森林室、根釧西部森林管理署と当センターが連携して、「初任段階教員研修」に取り組みました。

これは、北海道教育庁釧路教育局と根室教育局が、採用3年目の教員を対象とする研修を森林室と国有林が支援したもので、同局管内の小・中学校、高等学校、養護学校に勤める先生が参加しました。

この研修で国有林は、森林作業現場の見学と木育体験等を企画し、森林整備作業現場の見学では、高性能林業機械による伐倒・玉切り等のデモンストレーションが行われ、大きな木があつという間に倒れ、丸太になっていく工程に、研修生から驚きの声が上がっていました。その後、研修棟へ移動し、自己紹介を交えたアイスブレイクを行うとともに、森林管理署担当者の解説で、パイロットフォレスト造成時の様子を記録したDVDの視聴や望楼見学等を行いました。



▽森林整備作業現場で説明を聞く研修生



▽タネ等の解説を聞く研修生

当センターは、森林環境教育の取組みの紹介、タネ、樹木と葉、動物等について解説し、ロケット・ラワンづくりを通じて、いろいろなタネの飛び方や運ばれ方を実感していただきました。

当日は猛暑の中、また、慣れない森林での木育体験等となりましたが、研修会は無事終了し、研修生の皆さんはパイロットフォレストを後にしました。

木育交流会 in 弟子屈

7月21・22日（土・日）、北海道と国有林が連携して「木育交流会 in 弟子屈」が開催されました。この催しは、「北海道・木育フェスタ 2018」の一環で、子どもたちが、森と木にふれあう機会を通じて交流や連携を深め「人と森林との関わりを主体的に考えられる豊かな心」を育むことを目的に行われたものです。

第1日目の21日（土）は、根釧西部森林管理署と当センターが、木の名札づくりや森林整備作業現場の見学等を企画し、当センターが行った「木の名札づくり」では、初めて会うお友達の名前がわかるように、カラマツ・イヌエンジュ・バッコヤナギ・ミズナラ等の輪切りから好きなものを選び、名前やイラストを描きました。また、「パイロットフォレスト」の見学では、森林管理署担当者の解説で、造成時の様子を納めたDVDを視聴するとともに、機械展示棟で当時使用していた機械を見ました。最後の森林整備作業現場の見学では、子どもたちは、カラマツ伐倒のデモンストレーションやアタッチメントの説明の際、高性能林業機械に興味津々で、機械を間近で見ようと近づいていました。

子どもたちからは、「木がどれだけ大切か、わかった。」や「木の勉強も意外といい。」等の感想がありました。



▽木の名札づくりの様子



▽高性能林業機械に興味津々な子ども達

白糠町

しらぬかカミングパラダイス

9月1・2日（土・日）の2日間、白糠町のハミングロードで、第26回「しらぬかカミングパラダイス」が開催されました。

この催しは、町民をはじめとして、各地から大勢の来場者が訪れる人気のお祭りで、同町の商店街通り（ハミングロード）を2日間閉鎖して歩行者天国とし、町民による露天やフリーマーケット、竹馬やフラフープ等の昔の遊びや多彩なアトラクションが繰り広げられます。また、白糠町緑化推進委員会が、木育推進の一環としてブースを設けており、その一角に釧路総合振興局森林室と当センターが日替わりで参加しているものです。

当センターは2日（日）に、カラマツやアカエゾマツのマツボックリ、木の輪切り、アイスの棒等で木工クラフトづくりを行ったところ、参加者は見本を参考にデザインやバランスを考え、材料を選んでいましたが、白糠の子どもたちには、アイスの棒でつくる木工クラフトが大人気でした。

当日は秋晴れの暖かい一日で多くの来場者が訪れ、家族連れや子どもたち等は、イベント閉会間際まで、木工クラフトづくりを楽しんでいました。



▽木工クラフトづくりの様子

産学官

産学官が連携した広葉樹の森林づくり

9月15日（土）、雷別国有林の自然再生事業地（根釧部森林管理署 293 林班・標茶町雷別）で、産学官が連携した CSR 活動が開催されました。

この催しは札幌市に支店をおく企業が、これまで主に道央で実施してきた社会貢献活動について、平成 29 年度から企業・釧路工業高等専門学校・当センターが連携して、広葉樹の植樹等を行っているものです。

2 年目となる今年度は、笹地 11 でミズナラ・ヤチダモ・ハルニレ 200 本を植樹するとともに、植栽木をエゾユキウサギの食害から保護するため、保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。

現地は笹根や根株が多く、苗木を植える穴掘り等にご苦労をおかけしましたが、参加した皆さんは秋晴れの自然再生事業地で、心地よい汗を流されていました。

参加者からは、「学生とともに社会貢献活動ができ、楽しい時間が過ごせました。」や「植栽木の成長が楽しみです。」等の感想がありました。



▽保護管で被覆する様子



▽集合写真

釧路町村会・くしろ森と緑の会

木育・森づくりフェア

11月10・11日（土・日）の2日間、イオンモール釧路昭和店サンコート広場で、2018「木育・森づくりフェア」が開催されました。

この催しは、地域住民の方々に木育の取組みを通じて、森づくりの重要性や協働の森づくりへの関心を高めていただくことと併せて、木とふれあう機会を提供し、木の良さ等の理解を深めていただくことを目的として、「釧路町村会」と「くしろ森と緑の会」が呼びかけ人となり、釧路地方の森林・林業に係わる国・北海道・市町村・関係団体等が連携・協力して開催されたものです。



▽国有林ブースの様子

根釧西部森林管理署と当センターは、11日（日）に「木工作体験コーナー」で、マツボックリで「ミニツリーづくり」を行いました。この「ミニツリーづくり」は、木の輪切りの台座にマツボックリを接着し小さな木に見立て、星（ビー

ズ等) や雪 (手芸用の綿) 等で装飾を施すもので、カラマツ・アカエゾマツ・ドイツトウヒ・ストロブマツ等、大小様々な大きさや形のマツボックリを用意しました。

当日は、多くの親子連れで賑わい、用意した席がなかなか空かず大盛況となりました。

国有林のブースの他、会場では「タンチョウのオブジェ」づくり等の木工体験や「木の玉プール」、「木の積み木」等の木製遊具も用意され、小さな子どもたちが楽しそうに遊んでおり、この2日間で600人を超える来場がありました。



▽完成した「ミニツリー」

【普及啓発の取組み】

春採湖の会

5月26日(土)、「春採湖の会」の植樹活動を支援しました。

この「春採湖の会」は、春採湖とその周辺の保全活動に取り組んでいる市民団体で、平成13年度からはこの会と約20の団体が、春採湖南岸の森林づくりに取り組んでいます。

最近、釧路市内の中心部に近い、春採湖畔にもエゾシカが現れるようになり、植栽した苗木が食害に遭い、当センターへ対策の相談があったことから、この度の活動支援となったものです。

当日は、会員15名程の参加があり、ヤチダモ・ミズナラ・エゾヤマザクラを植樹するとともに、植栽木をエゾシカによる食害から保護するため、保護管(ツリーシェルター)で被覆しました。



▽保護管組立ての様子

京都大学・北海道大学

9月5日(水)、京都大学の学生等が、パイロットフォレストを見学しました。

これは京都大学と北海道大学が、京都大学の北海道研究林標茶区と北海道大学の厚岸臨海実験所を拠点とし、上流の森林と厚岸湖・厚岸湾、そして、これらをつなぐ別寒辺牛川を対象として、森林植生・水生生物・土壌・堆積物等に係る実習を行っており、その一環としてパイロットフォレスト国有林を訪れたものです。

当日は、当センターの活動を紹介するとともに、パイロットフォレスト造成時の様子を記録したDVDの視聴や当時使用していた機械を見学しました。その後、望楼へ移動し、造成から60年を経たカラマツ林を眺望しました。

時折、雨が降る悪天でしたが、学生からは「見渡す限りのカラマツ林が、雄大でした。」や「望楼からカラマツ林を見ることができて、感動しました。天気の良い時にまた、見に来たいです。」等の感想がありました。



▽DVDを視聴する学生の様子



パイロットフォレスト国有林見学会

10月28・29日(日・月)の2日間、パイロットフォレスト国有林の見学会が開催されました。

この催しは、根釧西部森林管理署が、厚岸町と標茶町に広がるパイロットフォレストについて、造成当時、造林作業で使用していた機械やその映像等を地域住民の方々へ紹介するとともに、普段は立入ることができない望楼から、黄葉のカラマツ林を眺望していただくため開催したものです。

当センターは28(日)に、「高さ24mに位置する望楼の展望室は、カラマツの樹高より高い所にあるため、この時期は黄葉が360°のパノラマで見られます。また、天候が良ければ、雄阿寒岳や雌阿寒岳、国後島も遠望できます。」等と、望楼での解説を担当しました。当日は、20名を超える参加があり、



▽360° 見渡せる望楼

地域住民の方々に黄金色に染まったカラマツ林やパイロットフォレストの歴史を堪能いただきました。

参加者からは、「秋の紅葉の時期の他、春の若葉時期や夏の深緑の時期も開催してほしい。」等の感想がありました。



▽黄金色に染まるパイロットフォレスト国有林

【広報活動】

当センターは、イベントのご案内や活動状況等について、ホームページと広報誌「飛鶴の森林から」で情報発信に努めています。

広報誌「飛鶴の森林から」は、今年度 No133 ~ No139 を発行し、当センターの森林環境教育や自然再生の取組み等を掲載していますので、是非、ご覧下さい。

ホームページ (http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html)

飛鶴の森林から (http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/letter/index.html)



自然再生・生物多様性保全の取組み

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会

第7回再生普及推進のための連携チーム会合

5月22日（火）

山の日記念「雷別へ植樹に行こう！」

6月9日（土）、雷別国有林（根釧西部森林管理署 293 林班・標茶町雷別）で、山の日記念「雷別へ植樹に行こう！」を開催しました。

この催しは、当センターと地域住民が協働で、自然再生（森林再生）に取り組んでいるものです。

まず始めに、当センター職員が、植樹に当たっての注意事項等を説明しました。その後、参加者の皆さんは、植栽箇所へ鍬やスコップ・苗木を持って移動し、ハルニレ・ミズナラ・ヤチダモ 150 本を植樹するとともに、植栽木をエゾユキウサギの食害から保護するため、保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。

植栽箇所は笹根や根株が多く、苗木を植える穴掘り等にご苦勞をおかけしました。また、保護管（ツリーシェルター）の被覆では、杭や組立てた筒を運ぶのに、何回も坂道を往復する等、難儀等々ありましたが、参加した皆様は、熱心に広葉樹の森林づくりに取組まれていました。



▽植樹の様子

釧路湿原自然再生協議会 第31回再生普及小委員会

6月21日（木）

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会

第8回再生普及推進のための連携チーム会合

11月22日（木）

釧路湿原自然再生協議会 第18回森林再生小委員会

11月27日（火）、釧路湿原自然再生協議会「第18回森林再生小委員会」が開催されました。釧路湿原自然再生協議会には、湿原再生・旧川復元・森林再生・水循環・土砂流入・再生普及・地域づくり、の7つの小委員会が設置されており、「森林再生小委員会」では、森林の再生に関する実施計画とその実施状況、モニタリング結果等を検討しています。

当日は、当センターが取組んでいる「雷別地区自然再生事業」と環境省釧路自然環境事務所の「達古武地域自然再生事業」について、本年度の取組状況や次年度の予定を説明するとともに、意見交換を行いました。

釧路湿原自然再生協議会 第32回再生普及小委員会

12月14日（金）

第25回 釧路湿原自然再生協議会

2月26日（火）、第25回「釧路湿原自然再生協議会」が開催されました。

当日は、第9期（前期）協議会構成員の公募結果報告が報告されるとともに、第9期協議会会長及び会長代理が選出されました。

その後、各小委員会から取組状況の報告があり、意見交換が行われました。

【雷別ドングリ倶楽部】

平成 19 年 7 月から活動している「雷別ドングリ倶楽部」は、高齢級のトドマツ人工林が立ったまま枯れてしまう気象害に遭い、笹地となった雷別国有林（根釧西部森林管理署 293 林班・標茶町雷別）をフィールドとして、広葉樹の森林づくり（自然再生）等に取り組んでいるボランティアの方々の集まりです。

今年度は新規会員 3 名を含む 22 名で、5 回の「森林づくり活動」等を行いました。



広葉樹の植樹と保護管の被覆

5 月 30 日（水）の第 1 回目の活動は、雷別国有林の自然再生事業地笹地 11 で、ハルニレ・ヤチダモ・ミズナラ 150 本を植樹したもので、会員の方々は慣れた手つきで次々と植えていました。また、午後からは、植栽木をエゾユキウサギの食害から保護するため、保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。

当日は、季節外れの陽気で、参加した皆さんは、自然再生事業地で心地よい汗を流されていました。



▽植樹の様子



▽保護管を組立てる様子



達古武地域森林再生事業地の見学等

7 月 18 日（水）の第 2 回目の活動は、環境省釧路自然環境事務所が森林再生に取り組んでいる「達古武地域森林再生事業地」（釧路郡釧路町達古武）を見学しました。

当日は、同事務所のご担当者から、当該事業の目的を始めとして、広葉樹苗木の育成や森林再生等について、現地を見学しながらご説明をいただくとともに、「森林と湿原のつながり」のご説明もあり、会員は熱心に聞き入っていました。



▽苗畑の説明を聞く様子

また、午後からは「達古武遊歩道」で、湿原に咲くオオウバユリ、ホザキシモツケ、チシマアザミ等の初夏の花々を観察しながら、展望台まで散策しました。晴天の夢ヶ丘展望台からは、釧路湿原の雄大な景観を眺むことができました。



釧路川源流部の自然観察等

9月12日（水）の第3回目の活動は、玉川大学北海道弟子屈農場（弟子屈町美留和）を訪ね、釧路川源流部に位置する同大学研究林で自然観察を行いました。

当日は、同大学美留和晴耕塾から講師をお招きし、当該施設や研究林の概要をはじめとして、地勢や動物・植生等について、現地を散策しながら解説いただきました。また、解説の際は、国外のものを例示いただく等、専門的な説明と併せて、会員の方々の質問にも丁寧にご回答いただきました。

参加した皆さんからは、「今後の森林づくり活動に参考となるお話を聞くことができ、大変有意義な一日でした。」や「釧路川源流部の貴重な森林の散策と専門的な解説を聞くことができ、大変勉強になった。」等の感想がありました。



▽ヒグマの解説を聞く様子



▽地勢の解説を聞く様子



稚樹の刈出し等

11月7日（水）の第4回目の活動は、当初、森林整備作業現場の見学を予定していましたが、内容を変更して自然再生事業地で稚樹の刈出し等を行いました。

今回は、昨年の7月12日と26日の猛暑の中、植栽木をエゾユキウサギの食害から保護するため、防兔柵を設置した笹地12で稚樹の刈出しを行ったもので、会員の方々は秋も深る寒空の下、黙々と作業を行っていました。



▽稚樹刈出しの様子

また、午後からは、標茶町立中茶安別小中学校の「るんるんフォレスト」（学校林）を見学し、当センター職員が学校林の概要や活動支援の内容を説明しました。



次年度の計画策定等

年が明けた2月6日（水）、今年度最後となる第5回目の活動を根釧西部森林管理署の会議室で行いました。今回は、今年度の活動を振り返るとともに、会員の方々の意見を踏まえて、次年度の活動計画の検討を行ったものです。

出席された皆さんからは、「冬季の活動も検討してほしい。」や「森林整備作業現場を見学したい。」等の意見があり、次年度の計画を確定しました。

